

## 消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

## 【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事件事例
2. 体験した事例の名称	狭隘な現場において、焼きしたガラスの落下もしくは飛来による負傷事故。
3. 体験した事例の中心的要素	火災現場に到着し、機関員と共に吸管操作をした後、放水隊員として筒先に合流した直後、火元建物上部より落下してきたガラスが防火衣を貫通し、右上腕部に刺さった。
4. 体験した事例の原因・理由	活動空地が狭く、十分な安全距離を確保できなかったこと及び、防火衣の性能（耐突き刺し）について十分把握していなかったこと。

## 【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
------------------	--------------

## 【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 18 年 4 月 1 日 午後 9 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：木造瓦葺 2 階建店舗併用住宅の北側
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	飛来・落下ぶつにぶつかる、
7. 事例体験時の活動	火災、木造建物 [ 現場活動初期、 ]
8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか	放水活動、その他：小隊長及び隊員と合流直後
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[30]歳、勤続年数[7]年、現場経験年数[7]年、階級[消防士長]、同様の活動[1年に数度]、任務[ ]
○当事者B	年齢[39]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[消防士長]、同様の活動[1年に数度]、任務[機関員]
○当事者C	年齢[53]歳、勤続年数[35]年、現場経験年数[29]年、階級[消防司令]、同様の活動[初めて]、任務[その他：小隊長]
その他 (当事者が4人以上の場合)	消防隊員及び現場指揮本部の指揮官

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者 A,B,C その他	火元建物から北へ約100メートルの位置に水利部署。	
経過2	当事者 A,B	吸管の延長及びカラーコーンを設置し水利の確保。	
経過3	当事者 A,	ホースカーから伸びているホースをたどり、火元北側到着。	
経過4	当事者 A,C	小隊長及び放水活動中の隊員と合流し、「水利確保」報告中（受傷した時期）。	二階から突然ガラスが落下し受傷
経過5	当事者 A,その他	しばらく放水活動を行うが、痛みを感じたため、隊を離れ指揮官に報告。	
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

危険情報を把握、予見できなかった。資機材の不機能が適切だった。後方からの監視の目が行き届いていなかった。たまたま、負傷事故になった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ

・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ
---------------------	-----

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	はい
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ
-----

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

危険予知訓練、図上訓練を個人、小隊単位で行う。(署所)

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

一人一人が活動する環境を確認し、その意見を共有する。訓練後の反省会、出動後の話し合いを積極的に行う。(狭隘であるとき、高所であるとき等多くの事例を取り入れた訓練。)(署所)

○指揮・情報伝達の対策について

現場活動初期であったものの、火勢は強く(石油ストーブへのガソリン誤給油の事由)、爆発音、ガラス(防音ガラス使用民家)の高温等、消火活動においての情報不足、伝達の対策を行う。(個人)